

グリーンボンドと アナリスト

株式会社格付投資情報センター 常務執行役員

住 田 直 伸 CMA



2016年度の公募社債等の発行額は約13.8兆円（転換社債、財投機関債を含む）と日本銀行の金融緩和やマイナス金利政策などを受け、低金利下における資金調達額は増加、対前年比約4割増の伸びを見せた。しかし公社債で資金運用を行っている投資家などにとっては引き続き金利水準面では厳しい環境が続いているといえよう。

このような状況下、個々の公社債においても新たな魅力の提案や幅広い投資家の開拓などが求められているところであるが、最近これらに答え得るものの一つとしてグリーンボンドに対する関心が高まりつつある。グリーンボンドとはどのようなものか、そしてこの市場拡大に対する証券アナリスト（以下、アナリスト）への期待について述べてみたい。

グリーンボンドとは、地球温暖化をはじめとした環境問題などの解決に資する事業への資金調達のために発行される債券である。07年にEIB（欧州投資銀行）が気候問題への認知を高めるために発行した債券（Climate Awareness Bond）が発端、その後08年に世界銀行がグリーンボンドの名称で起債を行ったことから、そのネームが拡大したといわれている。当初は世界銀行などの国際的な開発金融機関による発行が主であったが、市場の拡大により、現在は国や地方自治体、事業会社や金